AXEL実験

京都大学 理学研究科 物理学第二教室 高エネルギー物理学

博士後期課程1年 潘 晟

2017年2月20日 ICEPPシンポジウム@白馬

0vββ崩壊探索実験

2

(起こったとしても)非常にレアなイベント:¹³⁶Xeの0vββ崩壊の半減期 T_{1/2} > 1.07×10²⁶ 年 (90%C.L.) (by KamLAND-zen)

高エネルギー分解能



BG除去(低BG環境)

発見・観測に至るにはこれらの要素が不可欠!!

AXEL - A Xenon ElectroLuminescence-ICEPPシンポジウム 23 3 飛跡検出 高圧XeガスTPC for 0vββ decay search (背景事象の除去) 数m 電離信号の読み出し • エレクトロルミネッセンス(EL)過程 E シンチレーション光 ELCC photon ゆ数m 雷離雷子 PMT ; plane e 原子 ¹³⁶Xe 10~30 bar 掛けた電場に比例して増幅率が増加 指数関数的増幅過程を伴わない -> 増幅揺らぎが小さい 大質量 `150~200kV 読み出し機構の詳細は次頁 -> 約1トンの高圧¹³⁶Xeガス 高エネルギー分解能

2016年2月20日

-> 目標: 0.5%FWHM @ Q值

Electroluminescence Light Collection Cell (ELCC)

セル状の各領域でEL光を検出することで、エネルギー測定と飛跡検出を同時に行う 電気力線をセル内に引き込む構造なので、光量の位置依存性を軽減 堅い素材で構成されているため、大型化が容易(メッシュのたわみのような問題が無い)



AXEL実験 メンバー

5

京都大学が中心となって進めているOnbb崩壊探索プロジェクト。



市川温子准教授







中村輝石(Ph.D)





田中駿祐(M2)



吉田将(M1)



中村和広(M1)

廣瀬昌憲氏、関谷洋之氏(東大宇宙線研)、上島考太氏(東北大RCNS)、身内賢太朗氏(神戸大)

試作機の製作(UV-MPPC)

6

有効領域: Ø 10cm、長さ9cm、64chの試作機を製作 ²²Naガンマ線源(511keV)でエネルギー分解能の評価を行うことが目的 -> 放電が問題で、圧力をあげられず、⁵⁷Co(122keV)での評価



7

試作機の製作(UV-MPPC)

Distribution of Number-of-Photon



8

試作機の製作(UV-MPPC)

Distribution of Number-of-Photon



試作機の製作(UV-MPPC)

counts

Distribution of Number-of-Photon



10

試作機の製作(UV-MPPC)

Distribution of Number-of-Photon



EL gain correction

Total number of photon of 30 keV gamma ray for "each cell"



試作機の製作(UV-MPPC)

11

Distribution of Number-of-Photon



-> Subtract the contribution channel by channel.

試作機の性能評価(UV-MPPC)

12

Distribution of Number-of-Photon after all cut & corrections



データ取得時間は5時間程度 長時間測定をしようと思うと、ガスの純度と放電が問題となっている

試作機の性能評価(UV-MPPC)

13



試作機の性能評価(UV-MPPC)

FWHM [kev] 00 80

90

70

60

50

40

30

20

10



etc.....

さらに電場の最適化 (放電対策)

ガスの純化

Comparison

VUV-MPPC (This work)



VUV-MPPCで性能評価を行った結果については、現在NIMに投稿中 (arXiv:1701.03931)

試作機の性能評価 - 511keV @ 8気圧 -

16

消滅ガンマ線由来の511keVのピークははっきりとは見えなかった 放電のせいで電圧をあげられないことが原因?

- Drift電場が低いと、recombination、拡散などが問題となる
- EL増幅領域の電場が低いと、cellへの収集効率の悪化



放電跡!!

17

特にこの部分が一番放電跡が濃い。拭いても周りの銅の色が変わっている



Problem:放電

18

放電箇所の特定と、対策を進めている







高圧電源用のシャーシ

コネクタ部分とシャーシ までの距離を離して、 放電を防いだ

> 出っ張り部分を なくしていく



次期試作機

19

次期試作機で大型化のノウハウ獲得とQ値に近いエネルギーのガンマ線による性能評価 -> メンバー総出となって設計・製作のためのstudy中





圧力容器内部でのケーブリング の取り回し、信号減衰の影響など -> Kazuhiro Nakamura

高電圧印加

コッククロフト・ウォルトン電源 -> Masashi Yoshida



20

次期試作機で大型化のノウハウ獲得とQ値に近いエネルギーのガンマ線による性能評価 -> メンバー総出となって設計・製作のためのstudy中



Simulation by Kiseki Nakamura





21

次期試作機で大型化のノウハウ獲得とQ値に近いエネルギーのガンマ線による性能評価 -> メンバー総出となって設計・製作のためのstudy中



まとめ

22

高圧キセノンガスを用いたニュートリノレス二重ベータ崩壊探索

- 大質量
- 高エネルギー分解能
- トラッキング(BG除去)

小型試作機(有効体積0.7L程度)では、FWHM: 0.8 - 2.0% @Q-value ただし、4atmのXeで57Co(122keV)で評価

より高圧なガスでの高エネルギー測定(511keV)は、放電でlimit…… -> 放電対策を進めている

次の試作機の開発も進めている -> 本年中に稼働を目指している

23

Backup

2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23

24



2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23 **25**





2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23 **26**





2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23 **27**





2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23 **28**





2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23 **29**



2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23

30



2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23



2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23

32



2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23

33



試作機の製作(WLS): Previous symposium

2016年2月20日 ICEPPシンポジウム 23

34

AXEL検出器の製作にあたり、有効領域: *ϕ*10cm、長さ6cm、64chの 試作機を製作



VUVに感度を持たないMPPC +波長変換材



試作機の性能評価(WLS): Previous symposium

2016年2月29日 ICEPPシンポジウム 22 35

- 4気圧のキセノンガス
- ⁵⁷Coガンマ線源を用いて性能評価(122keV)
- 4つのピークを観測
- -> それぞれのピークをガウス関数でフィットし、エネルギー分解能(FWHM)を評価





試作機の性能評価(WLS): Previous symposium

2016年2月29日 ICEPPシンポジウム 22 **36**

各ピークのエネルギーと分解能(FWHM)をプロット (エラーバーはフィッティングの際の誤差)

エネルギー分解能 @ Q値(2458keV):<u>3.6% (FWHM)</u>

-> 目標(0.5%)に比べると1桁ほど悪い(constant termを除くことができれば1.03%(FWHM))



試作機の製作(UV-MPPC)

37

Wave form (122 keV event) -> OK as a TPC.



2016年6月13日

ProtoType3

20160613/per1

Dark analysis



2016年6月13日

ProtoType3

20160613/per1

Dark analysis



Problem: ガス純度



